

〔国際会議〕

申 請 者	東京大学 生産技術研究所 教授 黒田 和男	2015002
研 究 集 会 名	Laser Display Conference 2012 (LDC '12) レーザーディスプレイ国際会議	
開 催 期 間	平成 24 年 4 月 26 日～4 月 27 日	
開 催 場 所	パシフィコ横浜	
申請者の役割	組織委員長	

概 要：

本国際会議は世界で始めて開催された、レーザーディスプレイに関する会議である。研究開発と実用化が急速に拡大しているレーザーディスプレイに関する、広範な技術を深く統合的に議論し、新規な産業領域の創造に資する事を目的として、公益社団法人応用物理学会日本光学会レーザーディスプレイ技術研究グループが関係学会のスポンサーシップ並びに立石科学技術振興財団等の援助を得て企画開催した。2 日間の開催ではあるが、日本を含め 12 の国々から計 152 名の研究者が集まり、採択された論文とポスターは夫々 31 件と 30 件であった。日本を除く各国の参加者は台湾 10 名、米国 5 名、ドイツ 5 名、中国 5 名、韓国 4 名、イスラエル 2 名、ノルウエー 2 名、カナダ、チェコ、アイルランド、ポーランドが各 1 名であった。基調講演として緑色半導体レーザーの開発状況がオスラムより、レーザーテレビが三菱電機より行われ、活発な質疑応答があった。口頭発表は 8 セッションあり、各セッションで 1 ないし 2 名の招待講演が行われた。セッションは項目別で、小型から大型までの光源技術、MEMS 系スキャナー、空間変調器、光導波、信号処理と雑音低減技術等、広範な要素技術分野で活発な議論と意見交換が持たれた。オーラルセッションでの質疑応答は、まれに見るほど活発であり、参加者の熱意と知見の高さが窺えるものであった。また、一回のポスターセッションを行ったが、他の同時開催会議参加者が議論に参加する等、この技術領域に関する多方面からの関心の高さが分かる。優秀論文賞三件をプログラム委員会が投票で決定、顕彰した。受賞各位は、Dr. U. Hofmann 等 (Fraunhofer Institute for Silicon Technology ISIT, Germany), Dr. S. Kato 等 (CITIZEN Holdings Co., Ltd, Japan), 及び Dr. T. Suzuki 等 (TOYO GLASS Co., Ltd.,) である。